

武蔵野市第四期基本構想・長期計画テーマ別市民会議

「団塊世代の主張」 第4回会議 会議要録

日 時：平成16年3月31日（水） 午後7時～9時40分

場 所：武蔵野スイングホール スカイルーム1, 2

出席委員：7名

1 開会

他の会議で遅れる委員がいるため、次第の順序を変えて「3 その他」を先に進めることとした。

3 その他

委員：まず、その他の（1）市民アンケートの概要について、事務局より説明願いたい。

（1）武蔵野市「団塊世代」市民アンケート概要【速報版】

事務局より、配布資料に基づきアンケート結果概要について説明

委員：地域活動への参加率51.7%は高率だ。ボランティア活動だけに限れば20数パーセントだと思う

が、子ども会活動等まで含めるからだろう。将来的には、防犯活動に参加したい人が多いらしいが。

委員：いろいろな事件が多いからだろう。また、年をとると腕力が低下してくるので、地域の協力体制を必要とを感じるのかもしれない。

委員：地域活動への積極性は、思ったより上だ。

委員：まだ元気だからだろう。

委員：余力が残っているということか。（76.6%が10年以上居住とのデータから）団塊世代は、居住年数が長い。アンケートは面白い結果が出そうだ。そのほか、厚生労働省の調査の資料については、特に説明はよろしいか。それでは、次は（2）市内見学について事務局の説明を求める。

（2）市内見学について

事務局より、配布資料に基づき見学候補施設等について説明

委員：皆が行ってみたい施設を中心に選んでみたい。

各委員、希望施設と希望日・時間について発言

委員：それでは、市内見学は、4月23日（金）午後1～4時とする。場所は「けやきコミセン」「シルバーヴィラ」「レモンキャブ」「天の薨」、時間があれば「きんもくせい」に寄る というような案で、後日事務局よりルートをお示しいただきたい。それでは、次第の「2 議題」に入りたい。

2 議題 テーマ別市民会議の報告書案 について（検討）

委員：まだ1名、委員がお見えでないので、「健康」の分野から始めたい。書いた方から説明願いたい。

委員：前回、「健康」の分野に「仕事」を入れた着眼点を生かした。健康とは「心身ともに」の意だが、現代社会では、特に「心のあり方」が重要だと思う。よって、生きがいを見つけること（心の健康）こそ健康のもと ということを書いた。 は体のケアについての記載で、楽しみながら、「健康」+「美」を求める意義を書いた。ただ健康なだけでなく「美しさ」は大切だ。楽しみながら、美しくスマートに生きていきたい。例えば、NPO的な組織が「団塊世代」を組織化し、その中に健康をプロモートする分野を作ったらどうか。ボランティアでは責任の所在がはっきりしないので、NPO的な組織が良いと思う。

委員：「壮健美社」なるネーミングあたりか。リタイアしたら、一番関心のあるものを武器に集まって

何かできたらよい。リタイア後も引きこもらないで、自ら外に出て活動し税金も納める - というパターンは我々団塊世代のモデルイメージだ。

委員：70歳になっても30歳くらいは「サバが読める」ようにカッコよく生きたい。自分自らが「健康を買い取る」ような発想が大事。

委員：健康より「美」にウエイトを置いた方が特徴が出る。団塊世代は男もカッコ良くありたい。歩き方や姿勢まで含めて「健康になりながら美しくなれる」ような施設ができたら良い。高齢者であっても「美」を諦めない人達からヒアリングできればユニークな案が出るのでは。

委員：健康管理業と言ったところか。

委員：高齢者向けに、「健康」「サプリメント」「鍼灸」を併せて事業化しようと思ったことがある。

委員：あまりカバーする範囲を広げ過ぎると既存の企業と競合してしまう。それよりは、コミュニティの中で「ニーズ」と「未提携の企業」とが新たに連携出来る仕組み作りこそが大切だ。既存の企業とは「競合」するのではなく「共生」できるような新たなビジネスを我々団塊世代から生み出したい。

委員：それでは、ここで1に戻って「生きがい」についてご説明願う。

委員：今の高齢者は、(生き方が)受身なので、団塊世代は積極的に豊かな生活を追及すべきとの考えを書いた。「生きがい」を獲得できるようなしくみ作りが重要だ。

委員：「積極的にやっ払いこう！」という姿勢がいい。前回話に出た「思い出旅行」のように具体的に事業化できると良いのだが。これからの「高齢者の生きがい」と「仕事」を結びつけるには、「想いを持っている人」をサポートする仕組みも必要だ。「思い出旅行」についても、既存の旅行会社のツアーとどう差別化するかが課題となる。

委員：町内バスストップ(街中数箇所で開催者をピックアップしながら出発するツアー)なども人気がある。順番としては、まず「健康維持のためのビジネス」があり、次に「健康を失ったあとのための思い出旅行のようなシステム」があれば理想だ。介護旅行はかなりお金がかかるが、通常の旅行費用程度なら高齢者も予算を割けるので、ビジネスとしての芽がある。

委員：市民から、常にカンパが集まるようなプラン(仕組み)があるといいが。

委員：地域通貨で、仕組みを回していく方法もある。

委員：システムは作るだけでなく、(運営に)心の豊かさを吹き込むような武蔵野らしさが大切。

委員：寝たきりの高齢者が、生活の全てを介護者に頼りながらも、電話で子どもの相談にのるボランティアをし続けているテレビ番組を見たことがある。私は、最後まで、「心の張り」のある生き方をしたいし、また、そのように最後まで「人の役に立てる」仕組みも重要だと思う。

委員：私達団塊世代は、これまでも「多彩」な生き方をしてきた。老後も同じように生きていきたい。

委員：「生きがい」は、いろいろな要素が集約されたものなので、報告書の構成としては最後の方になるのではないかと。

委員：構成は全体を見て検討する。それでは、次「3 家族」についてご説明願う。

委員：先ほどのアンケート結果からも、今は子どもと同居している方が多いようだが、やがては2人ないしは1人になるので、私は「家族」を夫婦のあり方の視点でまとめてみた。団塊の世代はもう少し積極的かもしれないが、世のリタイア組の半分は、1日中家から出ない人が多いようだ。私としては、積極的に外に出て「何かをする」「何かを求める」ような生き方をしないとまずいと思う。

委員：夫への提言、妻への提言の部分はユニークでおもしろい。

委員：友人の中にかかなりの亭主閑白である者がいたが、皆のアドバイスもあってか、(心がけ次第で)

かなり変わってきて、奥さんに言葉でお礼を言うまでになった。会話は非常に大切。4分に1組が離婚する時代だが、一緒に暮らす限りは、できるだけ仲良く暮らしたい。

委員：(ワークショップでは)シングルで老後を生きるというシチュエーションや、ニューファミリー的に他人と暮らすと言う案もあった。

委員：私は、1人になりたい派だ。ただし、動けなくなった時の不安感もあるので、1人でも「みじめ」にならない、やわらかなサポートを市が(または企業と自治体の提携で)してくれるといいと思う。「天の薨」の共同生活への興味も同義。

委員：団塊世代の男性の家事能力はどうか。高齢者は、むずかしいようだが。

委員：単身赴任を4年していたので、一応、ひととおりのことはできる。

委員：昔はコンビニもなく今ほど便利ではなかったもので、必要に迫られればやらざるを得なかった状況。

委員：やれると思うが、やる機会がなかった。リタイア後は料理教室などにも行ってみたい気はある。

委員：昔は、もっと近所で助け合っていたので、その点何とかなる部分はあった。(今は助け合いが希薄なので)アンケートで防犯ボランティアと言うのがあったが、「武蔵野セコム」みたいなものを作って一人暮らしのお年よりをサポートできたらいい。

委員：コミュニティマンションやユニットケアという住まい方もある。「4 仕事」に入る。

委員：アンケートでもボランティアに対する希望が5割近くあったように、私は、役に立つことで働きたい。

ただのボランティアではなく、事業として組み立てた方が、よりしっかりした「質の良い」サービスを「継続的」に提供できると思う。事業を進めるアイデア、考えをまとめる仕組みが第1で、その後、行政の後押しにより事業がスタートしていくのだと思う。年金だけでは十分な生活は望めないので有償ボランティアがベター。定年により、その人の能力が世の中から埋もれてしまうにはおしいと思う。

委員：行政の後押しを具体的に言うと、溜まり場的な「場」の提供あたりか。

委員：それとPR。

委員：私は、溜まり場を作ってもらうよりは、はじめから、どんどん仕組み作りに入るべきだと思う。私達には、それほど時間はないはずだから。

委員：賛成だ。半年に1回程度、審査委員会があって、アイデアを否定しないで生かすような仕組みが早急に必要だ。

委員：ソフト版「団塊テンミリオン」として、上限を決めて補助するとか。

委員：ぜひこのメンバーで、今の想いを持って審査してアイデアを受け入れていきたい。この会議の期間(半年)くらいでは結論はでないので、我々の話をもとに事業化して3年以内にやる - というような仕組みを残し、ぜひ我々に、アイデアを生かす審査員役をやらせてほしい。

委員：我々にとって2~3年後は遠くない。団塊が全員60歳になってからでは、仕組み作りは遅い。

委員：アイデアを募り、市民投票で決めるという方法もある。

委員：投資を募るのもよいか。

委員：アイデアの「競り」をすればよいのでは。「このアイデアに500万円」とか。

委員：マッチング・ファンド方式に近いものか。資金は、自前+行政で集める方式だ。それでは、「5コミュニティ」へ移る。

委員：今日は構成プランを出したが、今の話で変更したくなった。私案の「団塊の世代酷使計画」は、コミュニティ・企業・メディアのコラボレート案だが、これに今の事業を加えて加筆修正したい。

委員：了解。最後「6 生活」説明願いたい。

委員：他のテーマと重なるところがあるので、これまでのデータや皆さんの意見をできるだけ漏れなく入れた。あとは私見。

委員：「ゆとり」の中身は何か。

委員：半分は経済的なものだ。仕事につながる「何か」があって、それがやがて「生きがい」にもつながると言う「ゆとり」があると良い。あと個人的には、身近に文化のある生活が理想なので、旅行や生涯学習のポイントは高い。近くのカフェで、日常的にコンサートが開かれるのもいい。

委員：神戸にある「けま喜楽苑」は、そのようなこと日常的にやっている特養だ。サロン、カフェ、コンサートなどの拠点になっている。私達団塊が行く施設は「本物志向」でいきたい。

委員：市内で、団塊テンミリオンに場所を提供してくれる人がいると良い。

委員：今のテンミリオンの運営者の（契約満了）後に、運営者として名乗りを上げる手もある。

委員：すでに「高齢者」と「子ども」向けがあるのだから、最多層である団塊向けテンミリオンがあっても良いのでは。

委員：「6 生活」にあるように、お金を有意義に使える仕組みを作ること、（それも今までのように営利目的だけの企業に支払うのではなく）、自分達が暮らしているコミュニティの中で、お金を有意義に使う仕組みを作るとは我々団塊世代の使命だと思う。これは、構成上、報告書の前半部分に置いた方が、我々のプロジェクトに説得力が出ると思うが。

委員：議論はここまでとし、3の（3）今後のスケジュールについて決めたい。

3 その他

（3）今後のスケジュールについて

次回（最終回）は、5月18日（火）午後6:30から。

今回の報告書案については、座長がリライトし事務局とも調整のうえ、再度案として委員に配布しご検討いただくこととする。